



卒業証書用紙漉き体験

6月25日(木)3年生は、本校(町の)特色である手漉き和紙による卒業証書づくりに取り組みました。その事前指導として、6月19日(金)には、細川紙技術者協会 保田義治 様から「小川和紙と細川紙について」と題して、お話をいただきました。

小川といえば「和紙」といわれるほど有名な小川の和紙。なかでも楮(こうぞ)だけを使用した「細川紙」の製造技術は、国から「重要無形文化財」の指定を受けています。また、和紙の歴史は古く、1,300 年も前から和紙づくりが行われていたとのことです。当時、武蔵野国には高麗の帰化人が多く、彼らによって武蔵の紙は広められ、手漉きの技術をもたらしたのが小川和紙の始まりだとも言われています。一口に和紙といっても職人、農業、問屋など様々な人が関わっています。そして、和紙を守っていくには、関わる人の中でも消費者が最も重要だと保田さんは語っていました。

紙漉き当日は、和紙技術者協会の方々の指導のもと、一人一人自分の卒業証書用の和紙を漉くことができました。私自身、随分前に体験したことがありますが、厚さが均等にならず苦労したことを覚えています。しかし、簡潔な指導のもと、生徒は真剣な表情ながらも思いのほか簡単に和紙を漉いていたので、感心させられました。

小川町で学んだ生徒たちが、自分で漉いた卒業証書を胸に卒業し、将来社会に出ても、郷土やその文化、歴史について自信と誇りを持って語れるような人間に育ってほしいと心から願っています。

和紙すき体験をして、和紙の歴史や作り方などのたくさんのことを学ぶことができました。実際にやってみると、水が冷たく和紙をすくのは、少し難しかったです。一生の思い出となる卒業証書を自分の手でつくることができ楽しかったです。卒業式で自分のつくった卒業証書をもらうのが楽しみです。 ○○ ○○



点字体験

6月19日(金)1年生がクラスごとに町内ケーシーエス株式会社の方の指導のもと、点字体験を行いました。初めにケーシーエスの方から点字の仕組みを教わり、実際に点字版を使って練習。その後、自分の名前を点字で表しました。小学校でも同様の体験をしている生徒もいましたが、真剣に取り組んでいる姿に感心させられました。さらに、短い文を点字で表し、指導者の方に読んでもらい、指先の感覚で点字をスラスラと読む様子に生徒たちは驚いていました。生徒たちは「点字は目の見えない人にとって凄く大事なんだと感じました。これからは、どんな所に点字があるのか見ておきたいと思いました。」「目をつむりながら行動しようとする、とても怖いと思う。そのような人たちを支える道具がどんどん進化していてすごいし、そのような人々を支えようとするのがとてもかっこいいと思った。私も直接じゃなくとも助けになることをしたい。」などの感想をもっていました。



進路説明会

7月9日（木）進路説明会を開催しました。令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜から選抜方法が大きく変更されることもあり、2年生の保護者にも案内しましたところ20名以上の保護者に出席いただきました。当日は、お忙しいところ、また暑い中、出席いただき、ありがとうございました。昨年度に引き続き、大妻嵐山高等学校と小川高等学校の校長先生をお招きし、私立高校と県公立高校の一般的な入試の仕組み等を説明いただきました。

私立高校においては、今年度から授業料の無償化が実施されています。この制度においては、所得制限が撤廃され、全国一律で年45万7200円を上限に支給がされます。ただし、あくまでも授業料のみであり、入学金や後援会費、施設設備費等は負担することとなります。

県公立高校においては、調査書様式の変更や全校での面接実施など（主な変更点参照）大きく選抜方法が変更となります。

埼玉県公立高等学校入学者選抜

<日程>

1月26日（火）～2月9日（火）	出願期間
2月17日（水）、18日（木）	志願先変更期間
2月25日（木）	学力検査
2月26日（金）	面接（全ての学校）
3月 1日（月）	特色検査（一部の学校）
※2月26日に実施する場合もある	
3月 2日（火）	追検査
3月 5日（金）	入学許可候補者発表

<主な変更点>

① 調査書の様式変更

調査書の記載項目

- ・各教科の学習の記録（9教科5段階）
- ・総合的な学習の時間の記録

② 自己評価資料の提出

- ・全受検生が作成。面接での参考とする。

③ 面接

- ・個人面接または集団面接により、自己評価資料を参考に実施
- ・「My Voice」（1分30秒～2分程度） → 質問・応答（3分30秒～6分程度）

④ 特色選抜

- ・学力検査において、3教科までの傾斜配点可
- ・特色検査 実技検査・作文（小論文）を実施

⑤ 学力検査問題

- ・解答方法にマークシート方式を導入（9割程度）
- ・国語の作文は実施しない

進路選択は、単に中学を卒業したら、どの学校・高校に進学するのか、または就職するのかというのではなく、将来を考え、「自分はどのように生きたいのか」、「自分の特性を生かすにはどのような職業を選べばよいのか」…というようなことも考えてほしいと思います。しかし、中学3年生にとっては、難しいこともあります。そこで判断をより適切に、自分の進路実現に意欲と自信をもって臨めるように、2学期からは教職員が加わって生徒・保護者の三者で相談をしながら進めていきます。

保護者の皆様には、お子様の性格・学力・特技・興味関心、将来の希望、さらには、社会や家庭の状況なども考えながら、本人が納得できるように人生の先輩として助言をお願いします。

3年生には、この夏季休業日に、県公立高校、私立高校を問わず、高校説明会や体験入学等を利用して、希望進路先の情報を集めてもらい、進路選択の参考にしてほしいと思います。